

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3127098号
(U3127098)

(45) 発行日 平成18年11月24日(2006.11.24)

(24) 登録日 平成18年11月1日(2006.11.1)

(51) Int. Cl.

E O 1 C 11/26 (2006.01)

F I

E O 1 C 11/26

B

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願2006-4995 (U2006-4995)
(22) 出願日 平成18年5月30日(2006.5.30)(73) 実用新案権者 599081288
安田 光昭
埼玉県さいたま市中央区大字下落合101
〇番地
(73) 実用新案権者 591118395
加納 博
東京都豊島区巢鴨5-35-12
(72) 考案者 安田 光昭
埼玉県さいたま市中央区大字下落合101
〇番地
(72) 考案者 加納 博
豊島区巢鴨5丁目35番地12号

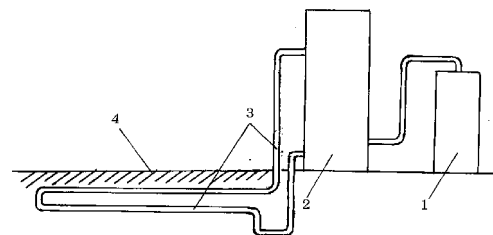
(54) 【考案の名称】 水燃機と温水ボイラーでの地面用溶雪装置。

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 地面上の溶雪を容易にし、水を電気分解した酸素水素ガスを利用した地面用溶雪装置の提供。

【解決手段】 水を電気分解した酸素水素ガスで大量の温水を作り、温水パイプラインを様々な形態にして地表近くに埋蔵して溶雪する。

【選択図】 図1



工程図

【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

温水ボイラーに水を電気分解した酸素水素ガスを直結し稼動させて温水を作り、温水をパイプラインで地面に誘導して溶雪を行う地面用溶雪装置。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

水を電気分解した酸素水素ガスの高熱を溶雪装置に利用する。

【背景技術】**【0002】**

地面や道路の積雪の処理は大変である。地下水を汲み上げて雪を溶かしたりしているが、地下水の減少によりそれも年々難しい。

【考案が解決しようとする課題】**【0003】**

水を電気分解した酸素水素ガスを利用した新溶雪装置。

【考案を解決しようとする手段】**【0004】**

水を電気分解した酸素水素ガスを利用することで、温水を大量に作り出すことができ、新しい溶雪装置にすることができる。

【考案実施の形態】**【0005】**

水を電気分解した酸素水素ガスを温水ボイラーに導入して燃焼させ、効率よく温水を作り温水パイプラインを設置して循環させて溶雪する。

【実施例】**【0006】**

以下は添付図により実施例を説明する。図1は溶雪装置の工程図である。1は電気分解により作られた酸素水素ガスである。2の温水ボイラーに導入して温水を作り3の温水パイプラインで温水を循環させることで溶雪ができる。温水パイプラインを地面の表面近くに埋蔵させることで地表を温めることができる。

【考案の効果】**【0007】**

本考案の溶雪装置は温水パイプラインを自由な構造で地面に埋蔵することで溶雪をすることができる。

【図面の簡単な説明】**【0008】**

【図1】 水を電気分解した酸素水素ガスを利用した溶雪装置の工程図である。

【符号の説明】**【0009】**

- 1 水を電気分解した酸素水素ガス
- 2 温水ボイラー
- 3 温水パイプライン
- 4 地表

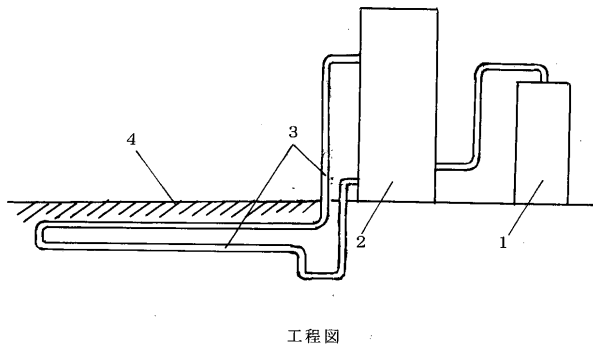
10

20

30

40

【図 1】



【手続補正書】

【提出日】平成18年8月28日(2006.8.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

水を電気分解した酸素水素ガスを温水ボイラーに直結し燃焼させ、温水を作りその温水を地面の表面に近い場所に一定の間隔でパイプを敷き、パイプは全部一本につながっていて、パイプの最後はまた温水ボイラーに戻り、温水が循環するようになっている構造を特徴とする酸素水素ガス温水地面用溶雪装置。